

平成 29 年度「食と農のミライ」作文コンテスト  
＜中学・高校・高等専修学校生の部＞  
最優秀賞

未来に繋げる農業

農業は欠かす事のできない重要な職業だ。人々の食事は、農業の存在なくしては成り立たないと思う。しかし、日本の農業は様々な課題を抱えている。TPP問題や後継者不足などである。しかし、私は工夫の仕方次第で農業は儲けることのできる職業だと思う。実際に農業従事者で儲かっている人は一千万円を売り上げている人もいる。だが、若者の農業に対するイメージはあまりよくなく、日本の農業は今危機に直面している。始めに、その課題について考えた。

課題の一つは、後継者となる若者の減少だと考える。農林水産省のデータによると、農業戸数が昭和25年をピークに減少を続け、2017年の販売農家は196万3000戸となっており、10年前より68万8000戸も減少している。少子高齢化によって若者の数自体が減少していることも要因の一つだと思うが、子供が農業について知り、触れ合う機会が少ないことも原因であると考ええる。

もう一つの課題は、農業による収入が天候や自然災害などに影響されやすいことだと考える。日本農業新聞によると、今年も大型の台風18号が通過した影響で、河川の氾濫による米の倒伏、ビニールハウスの倒壊など多数の被害が報告されている。天候に影響されずに、安定した収入を得られるようになれば就農者数も増加するのではと考える。

そこで、これら二つの課題解決について考えた。まず、子供が農業について理解を深め、触れ合う機会をつくるために、小学校・中学校などの総合的学習の時間を使い、花や野菜を育てる。農家の人を直接講師として招き、野菜や花を育てることの大変さと楽しさを教えてもらう。また、農家の人の話を直接聞くことで、インターネットだけでは知ることができない今の農業について知ることができると思う。これにより、農業について知ることができ、将来の就農者も少しは増加すると思われる。

二つ目の課題解決として、天候に影響されない農業のしくみを作ることである。私は、植物工場の設置や地下空間を利用した農作物の栽培を考えた。植物工場は、今も実際に研究されており、レタスなどは人工光でも生育できることが分かっている。人工光によって栽培できる農作物は多くないため、同時に大学や研究機関による研究が必要になると思うが、植物工場を利用できれば、今よりもっと天候に影響されない栽培を行うことができると考えている。しかし、こうした施設建設には莫大な資金が必要なため、個人で行うことは不可能だと思う。そのため、農家が共同で協力して行う施設建設の大手企業や国からの資金援助を容易に受けることのできる制度作りも必要になってくる。

これらの課題解決以外に、新規就農のための資金問題も課題である。全国新規就農センターが行った調査によると、新規就農者が用意した自己資金は、土地所得代を除いても平均569万円である。これだけの資金を若者が集まることは難しいと思う。そのため、地元自治体と協力して、耕作放棄地や空き地を格安で譲渡し、提供できるように協力してもらう必要があると思う。全国的に空き地でのトラブルも増加しているため、農地として利用できれば、空き地トラブルも新規土地取得の問題も解決できると思う。さらに、農業従事者の高齢化も問題になっている。高齢になり、農業をやめる人も多く出てきている。そのため、その人たちの農作物栽培のノウハウを教えてもらう場を作り、農業機械を格安で購入できるようにし、売上げの何%かを情報料として支払うことで、高齢になり農業をやめた人たちの収入にもなる。このような農業ネットワークの構築は、必要であると考えられる。同じ地域の農業従事者どうしのネットワークを今以上に発展できれば、新しい加工商品の開発など、特産品を新しく生み出すきっかけにもなるのではと思う。

私達の食事と深く関わっている農業には、様々な問題がある。このような課題にも私達高校生のような若い力で乗り越えなくてはならない。その手助けをこれからもできるように様々な問題に取り組んでいきたい。